

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	令和3年4月1日
法人名	医療法人 ゆりの会		
事業所名	グループホーム ゆり苑		
所在地	(〒221 - 0802) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ入居者様ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活をしていただけるよう支援しています。コロナ禍以前は1年に数回は外出レクを行ったり、季節行事、誕生日会等には入居者様に十分楽しんでいただくことができるよう力を入れています。料理上手な職員がたくさんおり、毎日3食、温かくて美味しい食事を提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年10月12日	評価機関 評価決定日	令和4年10月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇充実した医療体制

- ・利用者は設置法人役員が運営する隣接の内科で受診している。緊急時や夜間は協力医が24時間対応し、往診も可能な体制を取っている。
- ・協力医の看護師が月2回訪問し健康チェックを行っている。また、歯科医の訪問診療が月2回ある。

◇利用者のその人らしい生活の支援

- ・利用者、家族、職員のコミュニケーションが良好で、利用者の思いを汲み取る体制が出来ている。
- ・コロナ禍の制限はあるが、対策を取った上で、面会、思い出の地への訪問、花見と外食などを行っている。

【事業所が工夫している点】

◇充実した食への取組

- ・食事は、職員がメニュー作成、食材の調達、調理を行っている。
- ・行事食、利用者と職員でのおやつ作り、屋上での芋煮会、近隣での外食など、多様な食の楽しみを工夫している。

◇就業環境の整備に向けた取組

- ・面談シートに、各職員が業務の自己評価や意見・要望を記載して、代表者に伝え、就業環境の整備に反映できるようにしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自由の確保・自己決定・自立援助の3つを柱とした基本理念を意識して入居者さんとの関係作りに努めています。商店街の中という立地条件を活かし、地域の方とのつながりを感じられるように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を玄関に掲示している。 ・職員は利用者の自由・自己決定・自立を尊重し、理念に沿ったケアをしている。 ・好みの入浴時間、居室での食事など、利用者一人ひとりの思いに対応している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や消防訓練等に参加したり、近隣の保育園と交流を行っています。運営推進会議を通じ、町内会の方や民生員さんとの良い情報交換を行うことができます。（現在はコロナ禍の為地域との交流はできていません）	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入している。 ・コロナ禍で利用者と近隣との交流は困難だが、職員が地元の店で食材を購入したり、催しに参加して地域との交流を持っている。 ・ほとんどの利用者は近所の理容店に出向き、散髪している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ積極的に発信することはあまりしていませんが、相談を受けることがよくあり、その時には管理者や経験のある職員が応じています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、利用者やサービス状況報告をしています。構成員の方からは貴重な地域の情報提供をして頂きサービスの向上に活かしています。（現在はコロナ禍の為、書面上での会議を行っています。）	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の構成員は、家族代表3名・民生委員・地域ケアプラザ職員などで、現在は書面で報告し、寄せられた意見をまとめて再送付している。 ・会議を通じて、利用者が手作りでできる工作セットの提供を受けたり、避難訓練への参加が実現している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は連絡を取り、サービスの状況を伝え、相談等をしています。担当者が変更になった際は状況に応じて来苑、面談も実施しています。また、運営推進会議の報告は毎回行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の高齢・障害支援課や生活支援課と密に連絡を取り、行政手続き、利用者や家族との対応方法、他施設への通所などを相談している。 ・運営推進会議の議事録を区に送付し、事業所の状況を伝えている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止委員会を通じ職員には身体拘束となる具体的な行為について正しく理解するよう取り組んでいます。委員会も3か月に1回開催されており、適切な資料に基づいた研修を行っています。	・3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、研修を行っている。具体的な事例を学習し、何が拘束に当たるか理解に努めている。 ・研修後、日常のケアでスピーチロックではないかなどと職員間で注意し合っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を通じ、どんなことが虐待となるのか定期的に資料を用い、学ぶ機会・考える機会をもっています。その結果を現場で活かすよう全職員努めています。	・身体拘束廃止委員会と同時開催の虐待防止委員会で、虐待について学習し、各職員の所見を記録して閲覧できるようにしている。 ・暴力を振るう利用者の手を押さえて拘束しないようになど、管理者が虐待防止を指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用い、学ぶ機会を提供しています。実際、成年後見人制度を活用されている入居者さんもおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に面会に来られるご家族には行っています。来ることが出来ないご家族には手紙を送らせていただき、何か疑問があればご連絡いただくようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、意見、要望を外部の方へ知っていただく機会とさせていただいています。ご家族の意見要望は常に全職員と共有し、サービス向上に努めることにより運営に反映させています。	・利用者・家族からの面会の要望には、コロナ禍でも工夫して応じている。嗜好品の扱いなどは、会議で検討して家族に報告し、サービスの向上に反映している。 ・運営推進会議で家族からも意見を受け、反映結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に現場に入り、職員の意見や、提案に耳を傾け運営に反映させています。代表者は医師であり、近隣にはいないため、メールにて意見や提案、相談事を伝えるよう全職員に伝え、提案等を聞く機会を設けています。	・管理者は日常の業務や会議で、職員の意見や提案を聞き、職員会議で検討して運営に反映している。 ・職員は意見や提案を書面にまとめ、管理者だけではなく代表者にも伝わるようにしている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の面談シートを作成し、各々ケアの取り組み姿勢や入居者対応等の自己評価を行い、合わせてシートに要望等記入し、代表者に伝える機会を設ける事で、職場環境・条件の整備に努めています。	・面談シートに、各職員が業務の自己評価や意見・要望を記載して、代表者に伝え、就業環境の整備に反映できるようにしている。 ・代表者は、職員休憩室の増室、シフト外の出勤の時給増など、管理者・職員からの要望に応じている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者業務に関して、前管理者の事情を把握し、次世代の管理者を育成(研修に参加等)する事に努めています。	・代表者は、管理者からの報告を受けて、職員の力量を把握して、次の管理者育成のため、外部講習を受講させている。他の職員にも内部研修を受ける機会を設けている。 ・研修内容を職員で話し合い、ケアの実践に活用している。	・研修のテーマに偏りが無いよう年間計画を立て、職員会議の機会に内部研修を開催するなど、研修の充実が期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	3か月に1回グループホーム連絡会とのウェブ会議に出席しており、また区役所での認知症高齢者・虐待防止地域支援事業関係機関連絡会に出席することで、地域の多職種や同業者との連携や意見交換を通じてサービスの質を向上させていく取組みを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の要望に耳を傾け、ご本人が安心してサービスを受けられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始からその後にかけて、ご家族の様々な不安・要望等に耳を傾け、できるだけその要望に応じるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族とよく話し合い、必要としている支援を見極め、必要なら他のサービス利用をしていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・レクリエーション・季節の行事・誕生日会等を共に行ったり、楽しく会話することにより、良い関係作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会されたり、時折一緒に外出したいというご家族のご要望を叶えることによって、ご家族とご本人の絆を大切にしています。（現在はコロナ禍の為、面会・外出制限しています。）		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑周辺の商店街に馴染みの方がいらっしゃるので散髪や買い物・散歩がてら会って交流できるように支援しています。又、苑入所前から地域作業所へ通所されている方もおり、入所後も継続して通所していただいています。（現在はコロナ禍の為、外出は感染状況を鑑みて判断しています。）	・コロナ禍前は散歩や買い物時に近隣との交流があった。現在は近所の理容店での散髪や、タクシーで馴染みの店への外出を支援している。 ・状況に応じて面接や、リモートで家族と面談して、関係が途切れないよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者がどのような個性で利用者同士の関係性がどのようなものかは全職員が把握しているので、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙やメールをいただき、その後の様子についてお聞きしそれまで培ってきた関係を大切にしています。必要な時は相談・支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の希望をお聞きし、介護計画に反映させています。	・日常会話や表情から利用者の意向を汲み取り、情報を職員が共有して、介護に反映している。 ・把握困難な利用者はいないが、誕生日メニューや歌唱の好みを聞き取るなどして、楽しい暮らしの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・サービス利用の経過を把握し、今後もその人らしい暮らしができるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に現場に従事することにより、一人一人の現状把握ができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回の職員会議で各入居者様の現状について考え、必要なケアを検討しています。また、ご本人・ご家族・医療関係者等と定期的に話し合いをしたり、連絡を取り合い、意見・要望・アイデアを介護計画に反映させています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族、職員、医療関係者の意見を集約して、介護計画を作成している。 ・6か月に1回の見直しが原則だが、状態が安定している利用者が多い。 ・新規入所者は、必要に応じて計画の見直しを短期間で行っている。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な記録をすることに努め、情報を共有し、ケアの仕方や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じた支援を提供することにより柔軟なサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、その資源を有効に使い、本人が暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った適切医療を受けることができるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医の内科・皮膚科医(隣接)に夜間を含めて常時受診できる体制にあり、利用者は必要時に適切な医療を受けている。 ・協力医の看護師が月2回訪問し健康チェックをしている。歯科医の訪問診療が月2回ある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に必要な情報提供・相談をし、適切な看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師との良い情報交換や相談を行い、本人が安心して治療を受けることができるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、本人・家族との話し合いの場を持ち、重度化した場合の当苑の方針についてご理解していただき、それまでは当苑にてできる最善の支援を行っていくことを説明しています。尚、ターミナルケアは行っていない事についての説明・ご理解をしていただいています。	・重度化した場合の事業所対応方針を本人・家族に入所時に説明しており、実際に重度化したときは医師、家族、事業所が密接に連携して適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応方法について定期的に職員会議にて確認を行っています。年に2回の防災（避難）訓練の際、訓練用消火器や、AEDを用い訓練を行うことにより実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者・職員合同の避難訓練を行っています。地域の消防訓練等も積極的に参加しています。また運営推進会議を通じ、地域への協力体制の意識付けをしてもらえるようにも努めています。	・夜間想定を含めて利用者が参加して年2回避難訓練を行っている。AED、水消火器の使用訓練をしている。地域との相互協力体制がある。 ・水、食料の備蓄3日分、防災品を持ち、リスト管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の育ち、環境・性格等をよく理解したうえで、人格を尊重し、誇りやプライドを傷つけないような言葉かけ、プライバシーを損ねない言葉かけ等の対応を行っています。	・利用者のプライバシーに関する情報は書類を含めて事業所外に持ち出さないように徹底している。 ・利用者の人格やプライバシーを傷つけるような言葉かけ、態度をしないように職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由時間はそれぞれがお好きなように過ごすようにしていただいています。自己決定のできない方や、一人で過ごすことに不安や危険が生じる可能性のある方は常に職員の見守りができる場所で過ごしていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間など一定の決まり事以外は各自思い思いに過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段からその方の趣味を考慮し、ご本人様と話し合いながら支援しています。ご自分での選択が難しい時にはご家族に相談したり、ご本人が入所時にお持ちになった衣類を観察しお似合いになる衣類購入等を行うようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食手作りの食事を提供し、職員も必ず同席し、同じ物を食し、できる方は主に食後の後片付けのお手伝いを行っています。	・職員がメニューを用意し食材を調達し、利用者に合った調理方法で食事を提供している。 ・利用者の好みを把握し、メニュー、おやつ、誕生日のお祝い時等に反映している。行事食を適時に提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員会議等で確認し合い、栄養バランスを考え、各入居者様に適切な量の食事を提供しています。水分は定時にて摂取していただいておりますが、必要時は定時以外の時間にも提供しています。特に摂取が難しい方にはご本人がお好きな飲みものを提供する等の支援も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアは行っていただいております。ご自分では難しい方は職員が援助しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の記録を参考に職員会議にて各入居者様に合わせた排泄支援を行っています。現在、おむつを使用されている方はおらず、リハビリパンツや失禁パンツ、尿漏れ用パッド等を使用されている方がおられます。	・排泄チェック表により適時にトイレ誘導し、自立支援に努めている。その結果、リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便記録をおこない、職員間で申し送りを行っています。食物繊維が多く含まれている食材をふんだんに使った食事や、便秘がちの方には乳酸菌飲料の提供も行っていきます。ラジオ体操等の運動も毎日おこなっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっており、各入居者様の好きな曜日、時間での入浴は行っていません。それでも入浴日を覚えてくださっている方はその日を楽しみにしてくださっています。入浴日以外の日は毎日全身清拭を行っています。	・週2回を基本とし、利用者希望があれば好きなときに入浴できる。湯温は本人希望に沿っている。 ・入浴剤で温泉気分を味わい、季節の柚子湯、菖蒲湯、職員との会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様に合わせ、ご自分で休息をとれる方はご自分で、認識することが難しい方は職員が適時、声かけし、休息していただいたり、眠気が観察された時に声かけし、入床を促すように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の薬カードをファイリングし、常に職員が見れる位置に保管しています。服薬支援に関しては定期的に職員会議で検討し服薬介助を行っています。新たに内服薬が追加された時は副作用がでないか特に注意して様子観察し記録・申し送りを行い、副作用のような症状が出た時にはすぐに医師または薬剤師に相談するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や季節の行事を行っています。誕生日にはご本人の食べたい物を伺い、提供するようにしています。日頃の生活の中では食事の後片付けや洗濯物たたみ等簡単な作業を行って頂いています。歌がお好きな方が多いのでカラオケを行って気分転換していただくようにも支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為外出は控えておりますが、以前はご家族との外出は自由に行って頂き、日常では近所へ散歩や買い物に職員と行ったり、年に数回は行事として普段あまり行くことのできない場所へ出かけられるよう支援していました。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応で制限はあるが、散歩、買い物への参加、思い出の場所訪問等、可能な限り外出を支援している。 ・天気の良い日は屋上で外気浴、行事等、気分転換している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持ち、お金を所持されている方もいらっしゃいます。何か欲しいものがある時は希望の物を買うことができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援しています。コロナ禍の現在はオンライン面会もできるようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場はできるだけ季節感を出すようにしたり、行事の写真を貼ったり、レクリエーションで入居者様を作っていた作品を飾るようにしています。湿温度は入居者様が快適に過ごせるよう職員が常に調整しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、空気清浄機(各フロア、居室)を稼働している。 ・利用者作成の習字、塗り絵、季節感を感じる七夕飾りやもみじ等をリビングに飾り居心地を良くしている。 ・不快な臭いや騒音はない。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場では定期的に席替えを行い各入居者様が居心地の良い環境を作るようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、居室に置くものは入所時にご本人様がそれまで使われてきた物を置いていただくようにし、安心して生活していただけるようにしております。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、防災カーテン、ベッド、クローゼットを事業所として設置している。 ・利用者が慣れ親しんだもの（TV、家具、家族の写真等）を持ち込んで居心地よい居室にしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等には表示をつけ分かりやすいように工夫しています。洗面所には名前を付けた個々の手拭きタオルを設置したり、ご自分で口腔ケアできる方は口腔ケアセットをおいて置くようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ゆり苑

作成日 令和 4年 10月 22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	研修のテーマに偏りが ないよう年間計画を立て、 職員会議の機会に内部研修を 開催するなど、研修の充実 に努める。	コロナ禍により近年は職員 会議も対面での集まりは難 しい為書面開催だったが、 今後は感染状況を踏まえつ つ、対面での開催を半年～ 1年以内実施する。その 際対面での会議を活用し、 内部研修の充実に努める。	現在コロナ禍により外部研 修への参加が難しい為、職 員会議での内部研修を充実 させるよう、年間計画を立て る際に様々なテーマを職員 其々に担当してもらう。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。